

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502614
法人名	㈱さわやか倶楽部
事業所名	グループホーム ひかり
所在地	福岡県北九州市小倉南区長野東町11番16号
自己評価作成日	平成24年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年2月11日	評価結果確定日	平成25年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さわやか倶楽部の基本理念である「慈愛の心」・「尊厳を守る」・「お客様第一主義」を常に念頭に、入居者様お一人お一人の笑顔を大切に対応させて頂いています。又、グループホームひかりとして「安心して安全に楽しく暮らす」を目標にお一人お一人にとって何が必要か、どうすれば喜んで頂けるかを職員全員が真剣に考え、「私の一番大切な人」として介護させて頂いています。その中でご入居者様の残存能力を奪う様な事の無い様に、出来る限り、ご自身でして頂く事の大切さを考え不安な気持ちになられたご入居者様にそっと寄り添う介護を目標に対応させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者複合施設「さわやか堂風館」に隣接して、2ユニットの「グループホームひかり」がある。全国展開を図る法人としての豊富な経験やノウハウを生かし、企業理念「慈愛の心、尊厳を守る、お客様第一主義」を念頭に置いて、日々の支援に取り組んでいる。緑の残る近隣にも、住宅が建ち並ぶようになり、地域との交流も広がりを見せている。隣接する「さわやか堂風館」と合同の夏祭りには、近隣の子供たちも多く参加している。プレゼントのカブトムシが大好評で、職員も次回に向け幼虫を飼育中である。ブログやメールで入居者の様子を広く発信し、日々の暮らしを紹介している。近隣から見学もある消防訓練は、実際に消防車や救急車が配置され、指導を受けている。事務所にはAEDが設置され、実際に使用された事例もあり、緊急時の対応についてもロールプレイを実施する等、日々の積み重ねが実践に活かされている。入居者の安心、安全な暮らしを目標に、また、力を発揮できる場面を大切に与えながら、管理者、職員は支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域行事に積極的に参加し、地域の一員として認めて頂けている。地域の自治会の役員様の慰問など受けている。	「慈愛の心、尊厳を守る、お客様第一主義」を理念として掲げている。リハビリを兼ねた活力朝礼を実施し、入居者の方々と一諸に、毎朝、理念を唱和している。管理者・職員共に『自分の親を入れたいグループホーム』との思いを大切に、理念の共有・実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方々と気軽に挨拶を交わし、子供たちも遊びに来てくれる事もある。	自治会、まちづくり協議会に加入し、地域の行事や活動に事業所として積極的に参加している。近年グループホームの周りに住宅が増え、近隣の子供達の訪問や、月1回地域の幼稚園児との交流など、地域との交流は盛んである。隣接する同法人の「さわやか蛍風館」のデイサービスとの交流や、デイサービスとの合同の夏祭りや記念祭には地域の方の参加多数あり、子供達へカブトムシのプレゼントが大好評で、次回に向け職員が幼虫を飼育中であるなど、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に、認知症高齢者様のご家族様に対しての面談や電話相談に応じている。又街づくり推進協議会の行事に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の他事業所の方にもご出席頂き、相互努力、情報交換を行う事でサービスの向上に努めている。	複数の家族、地域包括支援センター職員、近隣の他事業所の方の参加を得て、定期的に開催されている。活動報告や行事報告が行われている。会議では、意見交換や情報提供がなされ運営に生かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加して頂き、交流を深めている。	運営推進会議の場に参加される地域包括支援センター職員へ相談し、アドバイスを貰って日頃より協力関係を築いている。又、市担当者・ケースワーカーとの連携を図り、情報の共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束を行っている、ご入居者様はいないが、過去に行った身体拘束について、振り返って検討し、勉強会・検討会を行い何が身体拘束なのかを再度指導し、身体拘束しない施設を目指している。	身体拘束に関する方針を事業所内に掲示している。過去に身体拘束を行った事例があり、その経緯を踏まえて、法人・事業所全体で身体拘束をしない介護の取り組みを実践している。さらに、勉強会・検討会開催し職員全体で意識の共有を図り、日々実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本理念である「慈愛の心」・「尊厳を守る」・「お客様第一主義」を徹底して指導し、小さな変化に気付き報告し合う様に、指導している。		

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会等の研修会や車内研修会に参加し、ご家族様にはパンフレット等を用いて説明やアドバイスをできるように、心がけている。	内外の研修会に参加し、制度について学ぶ機会を持ち、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深めている。家族も、制度について関心のある方が多く、入居時にパンフレット等で説明やアドバイスを行い、必要時は活用に向けた支援が行えるよう体制が整えられている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じて行っている。特に退去条件や金銭に関わる事等、ご家族様に過去の事例を説明し、十分ご理解を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員制度を用いて職員とご家族との馴染みの関係を作りやすくして、いかなるご要望も必ず、管理者まで伝わるようにして、改善する様にしている。	意見箱を設置しているが、今のところ利用はない。事業所では、担当職員による入居者・家族との関係を深め、個々のニーズに対応出来るように意見・要望等の把握に努め、管理者への報告を行い検討し、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し、職員の幅広い意見・要望・提案に対して、検討・改善を行っている。	毎月職員会議を開催している。管理者は法人本部での、月3回の管理者会議に参加して、職員からの要望や意見を検討し、業務に反映できる様に努めている。又ホットラインがあり、職員が直接法人に意見や要望を述べる体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の就業環境についても、各人と話し合い、施設にとっても職員にとってもプラスとなる様に細かい調整を行っている。又、年に数回人事評価を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	実施している。	「本人のやる気」を重視し、他の制限は設けていない。本部からのエリアマネージャーと管理者で面接を行っている。65歳定年制はあるが、再雇用制度も実施している。内部研修、外部研修を通してスキルアップを図り、職員育成にも力を入れている。法人として給与体系確立や福利厚生の実施にも力を入れており、別府温泉保養所「さわやかハートピア」は、自由に職員が利用できる体制になっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	実施している。	名部研修等にて、権利擁護や尊厳について意識を高めている。今後は、更に職員の意識、理解を深めていくための研修実施や、外部研修への参加に取り組んでいく意向である。	外部研修について情報収集を行いながら、様々な視点から、人権教育、啓発活動に積極的に取り組んでいく意向である。

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内トレーナー制度・新人研修・実務者研修・介護職勉強会等を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員にグループホーム協議会の勉強会等へ出席してもらい、意見交換・相互見学等を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の意向を拝聴しながら、御本人様の本人らしさを大切に出来る施設作りを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、見学に来て頂き、実際のご入居者様の生活を見て頂きながら生活相談を受ける様に心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様の尊厳を守り御本人様の気持ちを汲みながら必要性の有無を検討しアドバイスを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごすような関わりを常に考え、生活リハビリ等を行う事で、共に支え合う心の絆作りを目指している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の意向を拝聴しながら、入居者様の本人らしさを大切に、出来る事は行って頂く様にしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に出来る限り面会に来て下さり、外出・外泊を自紙して頂ける様にお願いしている。	家族の面会も多く、外出(食事)や外泊(盆・正月)の他、レクリエーション、季節行事に家族の参加を呼びかけ、日常生活の報告も積極的に行っている。又、以前働いていた職員もボランティアとして活動しており、馴染みの関係が途切れないように、支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の雰囲気作りを常に心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去された方への継続的な面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から意向を拾い上げ、希望に沿った活動が出来るように努めている。	センター方式を活用している。家族にも協力していただき、丁寧に情報収集が行なわれている。遠方の家族には、メールで日頃の様子を知らせており、家族の方からも返信をいただいている。何気ない会話から思いをくみ取り、困難な場合は家族の面会時に情報収集や意見交換を行い、意向を反映できる様に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取りと御本人様の日常の会話の中からその人らしい生活が出来るように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員制度を用いて、現状の把握及び各職員への情報の共有化を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時・モニタリング評価時・ご家族様・本人様に要望・意見・提案を伺い計画に反映している。又、医療機関とも連携を図り受診時に動向し、医師の意見を伺い更に良いプラン作成を目指している。	本人、家族の意向を踏まえ、職員の意見、医療関係者とも連携を図り、介護計画に反映させている。毎月、モニタリング、評価を行い、見直しにつなげ、現状に即した介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録を把握し疑問点や気付いた点を介護職員と話し合い情報を共有化する様にしている。		

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診や外出・お買い物等・要望を出来るだけ受け入れて実現できる様に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練や貴市民センターでの研修に入居者様参加型で行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々、健康状態の把握に努め、かかりつけ医への情報提供、連携を図っている。	入居時に、かかりつけ医について確認しており、職員により、受診支援も行われている。2週間に1度、協力医による往診があり、歯科や皮膚科についても、希望される方や必要時の往診が可能である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居前に、必要に応じた情報の交換を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー等と、必要に応じた話し合いや定期的な訪問を行い、関係構築を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際に御本人様にとって最善の方法を御家族様と一緒に話し合っていく事をお互いに確認しており、医療・看取りを含めた話し合いを行っている。	事業所としての方針を、入居時に説明し、ターミナルケアについて、家族、本人の希望を確認している。また、家族会開催時に説明や意見交換を行い、方針の共有を図っている。重度化した場合は、家族、医師、関連機関との話し合いの場を持ち、本人、家族の意向に添える様支援を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応の研修会を行っている。又AEDを使用したロールプレイを行い、緊急対応を行う様にしている。		

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連携を持ち災害時に誘導等を行って頂ける関係を構築している。	年2回、消防署の指導のもと、隣接する同法人施設と合同で避難訓練を実施している。訓練には、入居者、家族、地域住民の参加や見学を得ている。災害用の備蓄品は2日分用意している。事務所にはAEDも設置されており、実際に使用された経緯もある。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状態・経歴・環境等を踏まえて、その人にとって心地よい声掛けを行う様に指導している。	排泄ケアや入浴支援の際には、同性介助を基本としている。届いた手紙は本人の目の前で了解を得て開封することや、電話の取次ぎ等、あらためてプライバシー保持を確認している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から短期・中長期の其々の目標を持った生活を送って頂ける様にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのご入居者様の意思を尊重し希望に添える様に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様のご理解とご協力を頂き、整髪洗顔着替え等、フローアを公共の場として捉え、人の目を意識して頂ける様に声掛けを行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御本人で、出来る事はご自身で頂き、お好みに合わせた副食等をご用意して提供する様にしている。	入居者の希望を取り入れ、献立を決めてユニットごとに職員が交代で作っており、家庭の味を大切にしている。近隣の八百屋さんや肉屋さんに配達をお願いし、他の食材は買い出しに行っている。3時のおやつも手作りの物を心掛けており、入居者の方にも力を発揮してもらっている。誕生日には入居者の方々とともにケーキをデコレーションしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の個人記録に、食事量・水分量等を明記して毎日の摂取状況の確認を行い、お一人毎に応じた対応を行っている。		

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御本人で、出来る事はご自身でして頂き、必要に応じて歯科の往診や口腔ケアを行うと共に、毎食後に、職員が同伴して口腔ケアを行い、磨き残しの無い様にチェックしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にトイレでの排泄を行って頂いていて	排泄パターンの把握に努め、表情や様子の変化等の個別のサインを見逃さないようにしながら、適宜に声かけを行い、トイレ誘導を行っている。夜間については、個別の状況を検討し、支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを、昼食・夕食には、寒天・果物を提供すると共に、水分摂取量が一目でわかる様に一覧表を作成し、水分摂取に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	衛生上問題が生じない限り、本人の意向を尊重するようにしている。	個浴で週3回を基本としている。入浴拒否の方には、声かけに工夫をして、自発的に入浴していただける様に努めている。菖蒲湯・柚子湯など、季節を感じ入浴を楽しむ工夫もなされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の意向を尊重し希望に添えるように努めている(就寝・起床介助は基本的には行わない等)。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局との連携を図り、誤薬のないように、厳しくチェックすると共に医療関係申し送りノート・ホワイトボード・メモ等を用いて薬の変更等に対しても情報の共有が出来るようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご入居者様の能力や嗜好に応じて外出・散歩・買い物・食事の下ごしらえ等を行って頂いている。		

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人様・ご家族様の希望により、大正琴の発表会や外食等に出掛ける様に支援している。	気候のよい時期は、グループホームの周辺を散歩している。個別の希望を取り入れ、ショッピングモールへの買い物、年1回大正琴の発表会に参加されたり、外食などの支援を行っている。同法人の別府にある福利厚生施設「さわやかハートピア」を利用して、家族と共に1泊旅行に出かけたりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様の意向を拝聴しながら、入居者様ご本人様の本人らしさを大切にできる様に支援している。希望される方には、職員同行で買い物へも行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族様に対して、写真やお手紙を同封して送ったり、電話についても、気軽に家族へ電話出来る環境を作っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に生花・植物を生けており、加えて換気を行いながら音楽を流している。	2階、3階にエレベーターで上がると、外に面した大きな窓が目に入る。窓からは外の蜜柑の木や梅の木を見る事が出来、季節を感じる事が出来る。リビングの窓際にソファが置かれ、日光浴に適した場所になっていて、心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に御本人様の意向に沿った支援を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様にお願いをして、使い慣れた物を持って来ていただいている。	ベットとロッカーが用意されている。趣味の大正琴を置かれていたり、化粧品を置いている方もいる。墨絵で今年の干支を描いて貼っている方など、それぞれにその方らしい部屋作りがなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれのご入居者様に合わせた生活リハビリを実行している。		